

# 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定 関係市民団体会議（健康・福祉分野） 議事要録

---

■日 時 平成 23 年 2 月 19 日（土）午前 9 時～午前 10 時 34 分

■場 所 市役所 811 会議室

■出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、  
小竹佐知子委員、作部径子委員、前川智之委員、松本すみ子委員、  
会田恒司委員、井上良一委員  
事務局（企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長他）  
関係市民団体（29 団体 61 名）

■傍聴者 2 名

---

## 議 事

・委員長より委員紹介、会議の趣旨説明の後、関係市民団体との意見交換が行われた。

【けやき会】討議要綱 4 ページの策定スケジュールでは、関係団体市民会議は討議要綱段階のみとなっている。計画案段階の意見交換の場から外されているのはなぜか。

【委員長】計画案の段階での意見は圏域別市民会議でお寄せいただきたい。

【ミュー（MEW）】質問に対する答えはもらえるのか。

【委員長】基本的にはご意見を拝聴する形である。回答あるいは関係部署に回すこともある。

【ミュー（MEW）】第四期と第五期との違いを、質、量ともに数値による見える化をしてほしい。

武蔵野市は、精神障害者に一番冷たいまちといわれている。精神福祉作業所も日本一少ない。この現状は第五期ではどう変わるのか。

保健所跡が有効活用されていない。都の施設であっても、武蔵野市内にあるものとして考えていただきたい。

【武蔵野市認知症予防プログラムの会】高齢者の単独世帯がふえている。災害対策支援をしようにも手を挙げる人は少ない。市内で孤独死後3日間放置され、その対応に苦勞した例もある。孤立化対策は今後大きな問題になってくる。

認知症対策は健康・福祉の分野別課題7)に触れられているが、予防活動にも力を入れていただきたい。

9)の高齢者の活動支援問題は、横の連携を含めた具体的なシステムづくりが大事だと思う。

【武蔵野千川福祉会】知的障害者が地域で暮らせるよう、市はグループホームの物件確保に協力してもらいたい。

知的障害の人の働く場所、就労支援の場所の確保も切実な課題である。

小中高まで児童デイで預かることで働く女性を支援することも大事である。

【武蔵野市視覚障害者福祉協会】視覚障害者のためのまちづくりとコミュニケーション事業を充実してもらいたい。

ICチップからの電波発信に反応する信号機を設置すれば、まちの交通渋滞などの解消につながる。また、バスのノンステップ化、道路の段差解消、点字ブロック上に物を置かないことを周知徹底してほしい。

テレビの地デジ化に伴って開発された音声対応装置を日常生活用具にしてほしい。また、郵便物・公共書類・保険や賃貸住宅の契約などデリケートな問題の文字情報を代筆代読できる職員を派遣していただきたい。介助者がいれば、視覚障害者は健康づくりの事業にも参加しやすくなる。

【アトリエ銀木星】現在、精神・身体障害者余暇活動の場を提供しているが、3月に小規模作業所に移行できない団体は助成金を打ち切られる。活動の継続ができるようにしてほしい。

障害者が多方面にわたって活動できる文化センターのようなものをつくってほしい。

【武蔵野市シルバー人材センター】Ⅶの1の9)での「就労機会の拡大」の担い手として当センターが大きな役割を果たしている旨の記載をお願いしたい。

Ⅶの4の2)に「都市基盤全般の再整備を実施する」とある。当センターの建物は築30年近く、利用者が不便を来している。今後の改築の道筋を立ててほしい。

【武蔵野市の医療と福祉をすすめる会】20年後の超高齢者社会に向けて武蔵野市はどのようにするのか具体的な発想が抜けている。「市民が安心して住み続けられる」は国や他都市も同じことをいっている。これでは目標にならない。

VIIの1の1)は、市の役割が明確でないために、何をしようとしているのかははっきりしない。市民と行政のあり方の論議を今後膨らませていただきたい。

「市民自治の原則」という立て方がよく理解できない。財政計画にある扶助費抑制の方向は、現実を無視している。私たちの感情とかけ離れた文章になっている。

【武蔵野市障害児水泳クラブ「いるか」】市の支援をいただいてグループ活動をしているが、最近はボランティアが減って活動が大変である。資金の援助よりも、行政は地域余暇活動に具体的にかかわってほしい。地域にお任せでは、今後よくなっていかない。

いつ、だれが、どうなるかわからないのだから、ケアホームの設置を具体的に進めてほしい。武蔵野市は地価が高く、土地の確保が難しい。市有地の有効活用をお願いしたい。

【中町寿会】平成19年には完了しているはずの道路の拡張計画に伴う立ち退きが、まだ終わっていない。住民に危険と不便を来しているが、市はこれをどう考えているのか。

【委員】761号線、御殿山通りの拡幅は、立ち退き交渉も含め平成23年度内の事業認可までに完結させたい。ただ、地中化に一定期間を必要とすることから、多少長くなることも考えられる。

【老壮52期会】新しいことを1つ起こすよりも、高齢者の奉仕したいという意欲を酌み、スキルを生かすことを考えてほしい。就労意欲のある人の養成も大事なことだと思う。

【武蔵野市の医療と福祉をすすめる会】テンミリオンハウスよりももっと近いところで、お茶を飲んで話し合えるような居場所が欲しいという声が多い。いかにお金をかけずに居場所づくりをするかは一番の課題であると思う。ぜひその旨の書き込みをしてほしい。

【委員】居場所づくりは、地域福祉計画で同時進行している。長期計画では、個別計画との連動と整合性を図ることが重要だと考えている。

【委員】無縁社会といわれる今、地域づくりの拠点としての語らいの場を、いかにコストをかけずにつくるかが非常に重要だと思う。今後検討していきたい。

【武蔵野市の医療と福祉をすすめる会】地域リハビリテーションの考え方を実現していただきたいが、具体的な施策が見えない。10年の計画の中には「福祉でまちづくり」の視点をぜひ入れてほしい。地域福祉は、行政が本気を出すことで成果が上がることを実体験した。自主を尊重しながらも、職員との協働作業ができるような研究をしてほしい。

【委員】「福祉の」ではなく「福祉で」まちづくりは重要なキーワードだ。だれとだれが協働し、だれがどういう責任を負いながら進めていくかという議論が、これからは必要であると思う。

【委員】地域リハビリテーションは、第四期調整計画の中で初めて正面から取り上げた課題である。脳卒中連携パスのように、医療連携を在宅にまで含めたことを1つ1つ進めていく。健康福祉総合計画でも、地域福祉は大きなテーマとなっている。長期計画ではその頭出しをしていきたい。

【特別養護老人ホームゆとりえ】地域リハビリテーション構想は、平成10年の専門委員会の報告で明確化されたものの、なかなか具体的に実現されなかった。脳卒中連携パスは、あくまでもツールである。地域の特性に合わせて、その拠点となる施設なり不足したサービスを明確にすることが必要ではないか。コミュニティ力を生かして、総合的な仕組みを具体的につくることが、この10年の課題である。その方向性を長計で明確にしてほしい。

【委員】適正な圏域をつくることについては丁寧な議論が必要である。今起きている問題をどう可視化し、解決していくかという動きと絡め、なじみの人間関係の中で、どう生き生きと、安心して暮らしていけるかは、今後10年の課題であると思う。

【委員】武蔵野市は、厚生労働省が打ち出す以前から小地域完結型の在宅サービスを提供する仕組みをつくってきた。市内のコミュニティにも特性がある。市内の日常生活圏域をどうとらえるか、よく議論したい。

【武蔵野市の医療と福祉をすすめる会】具体的なことは総合福祉計画であって、その前の頭出しの部分、生活の一番共通して問題にできるところを長期計画でしっかり押さえてほしい。市が、命と権利を守るという決意のほどをあらわすことで、市民も長計の論議に参加しやすくなる。貧困の実態に関するデータももっと出してほしい。

【ミュー（MEW）】「将来の生活に必要な情報を的確に得られる体制」は非常に重要だが、市がやるかコミュニティがやるかという問題もある。

12月8日の第4回市議会定例会で砂川議員が質問した精神障害者の就労支援についての市の回答は、次年度以降どう具体化されるか、委員から市に照会してほしい。

【委員】 個々人が、いかに必要なサービス、情報を得て人生設計していくか、それをだれが、どういう形で支えていくか、きちんとした議論が必要であることは全く同感である。

【委員】 精神障害者の就労支援は、平成23年から新たな健康福祉総合計画の中に障害者計画をつかって、一定のサービスを整備していく。

【吉祥寺西地域福祉活動推進協議会】 当市の福祉のあり方について、高齢者を中心に不満なり意見が多く出ていることに驚きとともに共鳴した。第四期でうたわれた市民社協を初めとする福祉関連組織は、何が改革されたのか。市は、自助・共助を強調するが、福祉団体のやることは公助に属する。市内福祉関連団体の合理化など重点的にとらえて、計画に入れていただきたい。

【委員】 市は、市民社協、福祉公社、社会福祉法人武蔵野の福祉3団体に民生費の20%を支出することで、公助に近い部分を担ってもらっている。財源の効率的運用のためにも、3団体には統治力を高めるための改革をしてもらっている。

【吉祥寺西地域福祉活動推進協議会】 「改革をしてもらっている」ということは、手をつけないということか。

【委員】 個々の団体がみずからの統治能力を発揮していただけるよう、必要な助言、指導をするのが市の役割と考えている。

【西久保地域福祉活動推進協議会】 武蔵野市のこれからの10年では、福祉を真ん中に据えることで市民を幸せにし、質実剛健な運営をしていただきたい。

現在の地域コミュニティは疲弊が激しく、重層的な活動をするための体力がない。コミセンは地域福祉の核にはならない。市民協働のあり方を、実効性のあるやり方で計画に盛り込んでいただきたい。市民社協をどこに置くかは非常に大きな問題である。上位計画にないことは下位計画に入れられないということが多々あったので、この長期計画には絶対に入れてほしい。

【委員】 「疲弊」という言葉ではあらわせない現状を十分認識している。「地域福祉活動のあり方」で、担い手の不足・固定化についての表現をするとともに、市民と福祉についての理解を深めてもらいたいという願いを文中に込めた。

【委員長】 これからの10年のコミュニティの担い手、市民を幸せにする地域社会をどうつくるかは非常に大きな課題だと受けとめている。福祉教育、ボランティア学習へのアイデアは何かないか。

【西久保地域福祉活動推進協議会】アイデアがないことに一番の不安を抱いている。今は皆さん頑張っておられるが、時間の問題である。その前に行政のほうで何とか手を回していただきたい。

【アトリエ銀木星】10年前から小学校の総合的な活動の中で、福祉教育の出前事業をしている。障害を持つ人も持たない人も同じ人間であるという考えを早いうちから育てていく必要がある。子どもたちも、目を輝かせて参加してくれている。助成金を打ち切られると、これらの活動が困難になる。

【委員長】広い視野から地域社会のあり方や行政との関係について意見交換できた。これを糧に計画案に進んでいきたい。

———— 了 ————